

One Zambia, One Nation

—協働を支える「一体感」—

国立健康危機管理研究機構 国際医療協力局

萩原 悠

アフリカをはじめ世界には、民族対立や内戦、クーデターを経験した国が少なくありません。しかし、ザンビア共和国は、英国からの独立以来、大規模な民族紛争を経験していません。もちろん民族間や政治に関する対立が全くなかったわけではありませんが、多数の民族・言語が存在し、多様な文化を持つ国であるにもかかわらず、なぜザンビアは比較的紛争が少なかったのでしょうか。JICAの「ルサカ郡総合病院運営管理能力強化プロジェクト」に感染予防管理や業務調整の分野にて携わった中で、私がザンビアで感じたことをお話ししたいと思います。

“One Zambia, One Nation”.....

ザンビアに滞在していた際、空港や病院、研修会場などで、何度か目にし、耳にした言葉があります。

“One Zambia, One Nation”（一つのザンビア、一つの国家）。

独立時に初代大統領ケネス・カウング氏が掲げた国家モットーで、現在も国章の下部に刻まれています。初めてこの言葉を目にしたときは、「建国の理念を表す言葉なのだろう」という程度の認識でした。しかし、ザンビアのカウンターパートと接するうちに、この言葉が単なる理念ではなく、人々の価値観に根付いていることを少しずつ実感するようになりました。

1964年の独立当時、70以上の民族が暮らしていたザンビアでは、初代大統領ケネス・カウング氏と統一民族独立党（UNIP）が、民族の違いを超えた結束を国家建設の柱に据えていました。後に副大統領を務めるマインザ・チョナ氏は1969年、「ザンビアにはベンバ（族）もロジ（族）もトンガ（族）もない、いるのはザンビア人だけだ」と述べたと伝えられています。今日でも、“Unity Day（統一の日）”という祝日が設けられており、多様な民族の団結を祝う日とされています。

ザンビアの国章には様々な意味が込められています。頂部の国鳥・サンショクウミワシ（アフリカン・フィッシュ・イーグル）は、独立の達成と困難を乗り越える国民の力の象徴です。交差する鋏とツ

Coat of Arms



ザンビア共和国 国章

ルハシは主要産業の農業と鉱業を、白黒の波は世界三大瀑布の一つで世界自然遺産のヴィクトリアの滝と、国名の由来であるザンベジ川を表しています。そして、左右に立つ男女は、特定の民族ではなく、すべての国民が国を支えるという意味が込められていると言われています。私が出会ったザンビアの方々は、穏やかで温厚、そして笑顔が印象的な人が多く、そうした朗らかな人柄も、「One Zambia, One Nation」というモットーを支えているように感じました。

研修や会議で垣間見えた国民性.....

“One Zambia, One Nation” が単なる理念にとどまらないことを改めて実感したのは、ザンビア国内でコレラの流行が拡大していた時期にCommunity-Based Volunteers（地域保健ボランティア：CBVs）の方々を対象に行われていた感染予防管理研修での出来事でした。研修の締めくくりに、行政担当者と参加者が“One Zambia, One Nation”と唱和する姿を見て、国家的な公衆衛生上の危機に際して、人々が団結する言葉として、ごく自然に使われていたことが強く印象に残っています。

また、ある会議で、近くの席の関係者同士が個別に話し始めた際、司会者が「Are we one team?（今、私たちは一つのチームですか）」と参加者全員に問いかける場面がありました。その一言で、それぞれに話し込んでいた人たちがふっと顔を上げ、会議の流れが戻っていきました。この言葉は、単なる進行のテクニックというよりも、「私たちは一体である」という国民の共有意識を思い出させる問いか

けのように感じました。そして、その言葉を自然に受け入れる姿からその意識が人々にしっかりと根付いているのではないかと感じたのを覚えています。

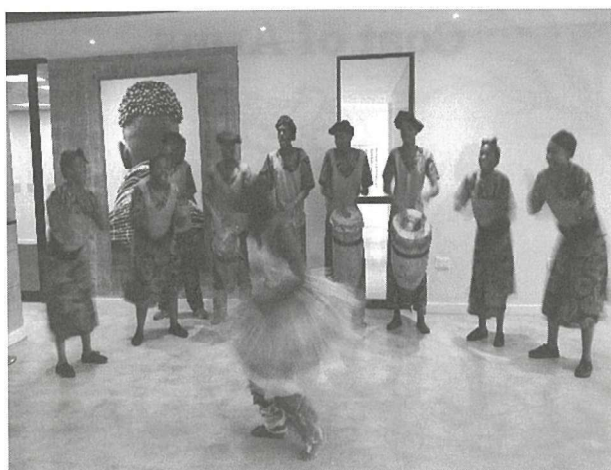
感染予防管理にも通じる“One Team”の意識

これらの意識は、私自身が担当していた感染予防管理活動にも通じるものがありました。特定の病棟や施設だけが予防に努めていても、患者が移動した先の病棟や医療機関で適切な管理がなされなければ、感染リスクは高まってしまいます。感染予防管理に限ったことではありませんが、個々の組織に加えて、州・郡・病院・病棟といった異なるレベルの組織が一体となって取り組む場合、一体感を促す意識づけはとても意味のあることだと感じるようになりました。標準作業手順書の作成や研修の際、組織や職種の垣根を越えて協働しようとする現地の方々の姿勢には、この国が大切にしてきたことが背景にあるように感じられました。

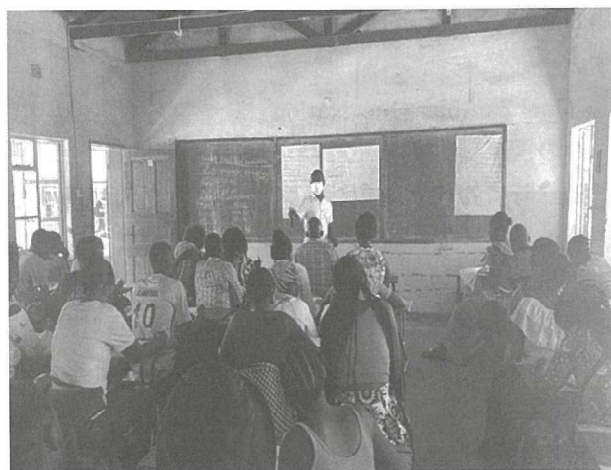
“One Zambia, One Nation”を通して.....

日本にも、多職種連携や地域包括ケア、医療機関同士の連携など、様々な形の「協働」の仕組みがあります。連携や協働が狙い通りに機能し、最大限の効果を発揮するためには、制度や仕組みそのものに加えて、「私たちは同じチームだ」という意識が、現場の一人ひとりにどれだけ根付いているかも、大切ではないかと考えさせられました。

ザンビアで出会った“One Zambia, One Nation”という言葉は、70以上の民族を一つの国としてまとめるための国家理念でしたが、異なる立場や組織を



ガイドライン発行式典にて披露された伝統ダンス



CBVs 向けに行われた感染管理研修の様子

つなぎながら医療を支えるグローバルヘルスへの示唆にも富んでいました。その気付きは、同国での活動経験の大きな収穫となり、今後のグローバルヘルスの実践においても大切にしていきたい視点となりました。

参考文献

ザンビア共和国大統領府 (State House) 公式サイト「国家の象徴」: <https://www.sh.gov.zm/national-symbols/>
Wikipedia「Coat of arms of Zambia」: https://en.wikipedia.org/wiki/Coat_of_arms_of_Zambia
Zambia National Heritage Commission「Coat of Arms」解説: <https://www.nationalheritagezm.com/chilenje-house-national-monument-coat-of-arms/>
Zambezi Traveller Blog「Rich symbolism in Zambia's

heraldry」(男女像の意匠意図についての記述あり): <http://zambezitraveller.blogspot.com/2013/07/rich-symbolism-in-zambias-heraldry.html>
学術論文「The 'One Zambia One Nation Motto': Implication on Multiculturalism」(IJRISS, 2021): <https://rsisinternational.org/journals/ijriss/Digital-Library/volume-5-issue-8/720-724.pdf>
学術論文「The Principle 'One Zambia, One Nation': Fifty Years Later」: <https://www.sociostudies.org/journal/articles/1556450/>
EBSCO Research Starters「Unity Day (Zambia)」: <https://www.ebsco.com/research-starters/history/unity-day-zambia>
Encyclopaedia Africana「Kaunda, Kenneth」: <https://encyclopaediaafricana.com/kaunda-kenneth/>

